

平成30年度 上陽小学校 学校評価 羅針盤

羅 針 盤				評 価 者				方 策
評価対象	評価項目	具体的な状況	数値目標	職 員	保 護 者	児 童	関 係 者	
I 保護者との連携	保護者への情報提供	学校や学級の様子を知らせる努力をしている。 学校や子供の成長の様子が分かる(保護者・関係者)	80%	○	○	○	○	○適切な情報発信(「送電線」「Webページ」「学年学級通信」「各種たより」「メール配信」「連絡帳」)に努める。 ○笑顔を大切にしながら日常的なコミュニケーションを心がけるとともに、内容によっては家庭訪問等をして直接相談するようにする。 ○長期休業中に教育相談期間を設け、個別の相談に応じる体制をつくる。
	連携のための環境づくり	学校の諸行事に参加したいと考えている。	80%	○	○	○	○	
	保護者への対応	学校に連絡や相談がしやすいと感じている。	80%	○	○	○	○	
II 確かな学力	分かる授業	授業が分かる。(児童) 授業について聞いたとき「よく分かる」と子供が答える。(保護者)	90%	○	○	○	○	○「めあて」と「振り返り」を積み重ねる。 ○「板書の構造化」と「発問の精選」に努める。 ○単元を見通した「主体的・対話的で深い学び」の具体化に努める。 ○問題解決的な学習過程を積極的に活用する。 ○CUを核とした学力向上策を展開する。 ○児童のつまづきの要因を把握(評価)し、指導と評価の一体化を図る。 ○学力学習状況調査等の結果分析を基に、より実態に応じた授業改善を図る。 ○「CUノート」と「家庭学習の手引き」を活用する。 ○宿題・家庭学習の必要性や意義を指導するとともに、保護者に家庭学習の手引きを活用してもらい、児童の家庭学習が習慣化するよう協力を依頼する。 ○読書の楽しさを味わわせたり読書の幅を広げたり等、進んで読書する習慣を培う。 ○「家読(うちどく)」や隙間読書などを積極的に勧める。
	基礎・基本の定着	子供に「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力(人間性等)」が身に付いている。	80%	○	○	○	○	
	評価	子供の学力や努力を適切に評価し、指導に生かしている。	80%	○	○	○	○	
	学習習慣	子供は家庭学習(宿題を含む)を毎日(平日)やっている。 読書は楽しい。(児童) 子供は読書が好きである。(保護者)	80%	○	○	○	○	
III 豊かな心	いじめのない温かな人間関係	学校が楽しい。(児童) 子供は毎日楽しく学校へ通っている。(保護者)	90%	○	○	○	○	○「主体的・対話的で深く考える道徳」「意思決定と合意形成を図る学級活動」を実践する。 ○異学年交流・縦割り活動を活性化させる。 ○「上陽小学校いじめ防止基本方針」を徹底する。 ○「いじめ認知0」の月を「0」にする。 ○Q・U(C&S)の理解と活用を推進する。 ○親や教職員が手本となり気持ちの良いあいさつを自ら行うようにする。 ○児童会主体の「あいさつ運動」を継続・発展させる。 ○「返事」ができ「用件」等が時と場に応じて言えるように家庭・地域と連携を図る。 ○保護者に子供の受け答えの様子を積極的に情報発信し、家庭の協力を得る。 ○「上陽小のきまり」を徹底させる。 ○「生徒指導情報交換会」で情報交換をし指導事項を確認する。 ○「だまって」「すばやく」「ていねいに」の合言葉で清掃を行い、清掃に対する積極的な意識を育てる。 ○早寝早起き、バランスのとれた栄養摂取の大切さを食育と関連させて指導すると共に、取組の様子を家庭に情報発信していく。 ○楽しさや達成感を味わわせる体育指導に心がける。 ○体育集会の実施等を通して、運動に対する意識、体力、技能の向上を図る。 ○全学年、新体力テストを実施し、本校児童の運動面の課題を明らかにし、実態に合わせた指導の重点化を図る。 ○学年経営案、学級経営案等を作成し、常に学校教育目標を意識して児童の指導に当たる。 ○学級目標を具現化する日常的な教育実践を積み重ねる。 ○具体的な自己目標を設定し、達成状況をチェックしながら教育活動を進める。 ○担当者の創意工夫による選択と集中を進める。 ○教職員間の丁寧な連携を通して職員会議で十分共通理解を図り、決定事項をきちんと実施する。そして行事終了後には来年度に向けての課題を明らかにする。 ○資料は3日前までに配付し、全職員が概要を把握して臨むとともに提案者はポイントをしぼった説明をする。 ○日常的なコミュニケーション(報告・連絡・相談)を大切にするとともに、心穏やかに良好な人間関係を維持できるようにする。 ○教職員としての働き方の工夫と改善を進める。 ○校務支援システムの運用ルールの共通理解を図るとともに、職員相互の支援協力によってスキルアップをして運用促進を図る。 ○規律確保行動計画を徹底する。 ○日常的なコミュニケーション(報告・連絡・相談)を大切にするとともに、心穏やかに良好な人間関係を維持できるようにする。 ○教職員一人一人が日々の指導を振り返り、自らの授業観、指導観、学校観を追究する。 ○提案型ワークショップ型研修を行い、一人一人の実践を学校全体の取組に広げていく。 ○特別支援教育研修、ICT研修、図工研修等、職員のニーズにあった研修を実施する。 ○単元終了後に改善事項を年間指導計画に朱書きし、次年度へ引き継ぐようにする。 ○諸計画の整備を計画的に進める。 ○資料等のデータを共有して事務を効率化し、子供と共に向き合う環境づくりに努める。 ○職員作業日を設定し、文書の棚卸しを組織的・計画的に行う。
		学校にいじめがない。	90%	○	○	○	○	
		いじめの発生予防に努め、発生してもいじめを解決している。	100%	○	○	○	○	
	あいさつ受け答え	子供は進んであいさつしている。	80%	○	○	○	○	
		子供は返事がしっかりでき、用件がはっきりと言える。	80%	○	○	○	○	
	学校や家庭のルール	学校の約束やルールを守って生活している。	80%	○	○	○	○	
子供は、家族の一員という気持ちを持ち、家庭のルールを守っている。		80%	○	○	○	○		
「だまって、すばやく、ていねいに」で掃除をしている。		80%	○	○	○	○		
IV 健康・体力	生活習慣(家庭教育)	「早寝」「早起き」「朝ご飯」の規則正しい生活ができています。	90%	○	○	○	○	
	体力づくり	体育・体育的行事・休み時間における児童の体力づくりを意図的・継続的に行っている。	90%	○	○	○	○	
		週3日以上、体を動かして遊んだり運動したりしている。	80%	○	○	○	○	
		子供に遊びや運動をすることを勧めている。	80%	○	○	○	○	
V 安全設備・施設	施設設備	毎月の安全点検をもとに施設設備の修繕や安全対策を行っている。	90%	○	○	○	○	
	学校の安全対策	学校行事や学級活動(避難訓練や交通安全指導等)・日常指導を通じて、児童に自分の身を守る力を育てている。	90%	○	○	○	○	
	地域の安全対策	登下校中の安全対策を学校・家庭・地域が連携して進めている。 通学路の危険箇所や安全な登下校について家庭で話し合っている。(児童・保護者)	80%	○	○	○	○	
VI 進路・生き方	キャリア教育	自己有用感をもたせ、将来に夢や希望をもって目標を達成していこうとする意欲と態度を育てている。	80%	○	○	○	○	
		将来の夢や希望について、親子で話し合う機会を設けている。(保護者) 将来の夢や希望がある。(児童)	80%	○	○	○	○	
VII 組織運営	教職員マネジメント	学校教育目標達成のために、教職員が一体となって努力している。	90%	○	○	○	○	
		校務分掌組織が効果的に機能している。	80%	○	○	○	○	
		職員会議が能率的に運営できている。	80%	○	○	○	○	
		教育活動における課題や悩みについて相談・協力できる教職員組織になっている。	80%	○	○	○	○	
		勤務時間の改善に向けた取り組みを推進している。	80%	○	○	○	○	
		体罰・不適切な指導の根絶等、常に服務規律確保に努めている。	100%	○	○	○	○	
	研修	校内研修は、自分の資質向上と授業改善のために役立っている。	80%	○	○	○	○	
		校内研修組織を整備し、見直しをもって効果的に研修を実施している。	80%	○	○	○	○	
	教育計画	各部会等での話し合いを経て年間指導計画を作成し、理解して取り組んでいますか。	80%	○	○	○	○	
	文書管理	各種文書・データ等は、分掌や担当ごとに適切に管理されている。	80%	○	○	○	○	
個人情報 realistically に保護されるように、管理が徹底されている。		80%	○	○	○	○		
学校支援センター	地域の教育力を生かした教育活動を展開している。	80%	○	○	○	○		